

Title	Osaka Literary Review 掲載論文一覧(1962-1990)
Author(s)	
Citation	Osaka Literary Review. 30 P.5-P.21
Issue Date	1991-12-20
Text Version	publisher
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/25436">https://doi.org/10.18910/25436</a>
DOI	10.18910/25436
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

# Osaka Literary Review

## 掲載論文一覧 (1962—1990)

### No. 1 (1962)

- 斎藤俊雄 *The Anglo-Saxon Chronicle* の Parker MS に見られる関係代名詞について
- 藤田実 シェイクスピア史劇における 'crown' の観念
- 藤井治彦 *Lycidas* —ひとつの解釈
- 渡辺孔二 スウィフトのプライド観 (I)
- 藤田繁 *The Return of the Native* に於ける葛藤について
- 森晴秀 *The Rainbow* の構造——イメージの発想及び錯綜と展開
- 梅垣清 S. Anderson: *Winesburg, Ohio*
- 竹内孝治 小説の視点とウイリアム・サマセット・モーム — 「木の葉のそよぎ」と「キャジュアライナの木」を通して—
- 栞田良一 realism から expressionism へ — Sean O'Casey の場合—

### No. 2 (1963)

- 石田久 *Antony and Cleopatra* について
- 藤田実 Shakespeare 史劇研究の一つの方向 *Richard III* の場合
- 渡辺孔二 スウィフトのプライド観 (II) — *The Battle* の場合—
- 梅垣清 J. エドワーズの「超自然的人間」
- 栞田良一 J. M. Synge: *Riders to the Sea* における 'reality'

- 森 晴 秀 芸術の崩壊——「エアロンの杖」と「カンガルー」  
の思想と表現
- Haruhiko Fujii JAPANESE POETRY AND WESTERN  
CRITICISM (書評)
- No. 3 (1964)
- 今 井 光 規 *Beowulf* に見られる Nominal Compounds につ  
いて
- 石 田 久 G. Chapman の悲劇—〈その1〉 *Bussy D' Ambois*  
の問題点
- 梶 原 幸 夫 Enter Barnardine—*Measure for Measure* 試論—
- 平 井 隆 *Absalom and Achitophel* の Satirical Method
- 渡 辺 孔 二 スウィフトのプライド観 (III) —「スウィフト家の  
エピソード」—
- 柏 木 俊 和 W. Blake の詩に於ける 'night' —*Songs of Innocence* と *Songs of Experience* を中心に—
- 栢 田 良 一 J.M.Syngé の喜劇における 'reality' —現実と夢  
の調和—
- 今 沢 達 *Howards End* にける 'horror' について
- No. 4 (1965)
- 藤 田 実 Shakespeare 史劇における儀式的要素 (I)
- 梶 原 幸 夫 Lucio の運命—続 *Measure for Measure* 試論—
- 渡 辺 孔 二 スウィフトのプライド観 (IV) —「楯物語」の場合
- 柏 木 俊 和 W. Blake: *The Book of Urizen* について
- 神 保 菘 *The Cenci* について
- 佐 藤 芳 子 *The Eve of St. Agnes* —その背景と意義—

- 藤田 繁 *The Dynasts* の一考察—Immanent Will, Spirits, Man の関係をめぐって
- 栞田 良一 J. M. Synge: *Deirdre of the Sorrows* — 「美」と「現実」の問題—
- 今沢 達 人間関係の形而上学: *The Longest Journey* 論
- No. 5 (1966)
- 渡辺 孔二 スウィフトのプライド観 (V) — 「ガリバー旅行記」を中心に—
- 高橋 弥生 *The Dynasts* に於ける「意志」の世界の芸術的表現—Spirits—
- 筒井 均 *A Passage to India* の主題と方法
- 植田 和文 「ガザに盲いて」について—その構成と記憶の問題—
- 吉田 一彦 All you do is (to) press the button の語法について
- 藤井 治彦 平井正穂著『イギリス文学試論集』研究社 昭和40年 (1965年) (書評)
- Suzuna Jimbo A Scientific Approach to Shelley's Poetry—An Introduction to *Shelley and Synesthesia*—
- No. 6 (1967)
- 渡辺 孔二 *The Drapier's Letters* をめぐって
- 吉田 一彦 「Not that I know of.」の語法について
- 丸谷 満男 日英語比較の一構想—翻訳基礎論の試み—
- 河上 誓作 特殊な“S+V+O”構文における目的語およびその修飾語の機能について
- 大橋 慶子 Whitman における南北戦争の意味

- 飯田 才太郎 補語と副詞  
 岩倉 国浩 英語“S+V+O”と日本語「～を一する」、「～に—する」

## No. 7 (1968)

Kazuhiko Yoshida

*Onomatopoeia and Repetition*

- 丸谷 満男 比較の意味論的考察—特に命題選択比較について  
 岩倉 国浩 英文構造の透明化傾向について—語用論的意味論の立場から  
 小谷 晋一郎 口語英語に於ける「～したほうがよい」の表現について  
 西川 盛雄 意味の形成と構造について  
 山本 哲 *Intruder in the Dust* 評価への道  
 筒井 均 イタリア人の子供のこと—“The Eternal Moment”と *Where Angels Fear to Tread*  
 山田 勝 オスカー・ワイルド研究：「芸術における嘘の問題」  
 鈴木 俊司 ポー短編小説の評価（1）

## No. 8 (1969)

岩倉 国浩

英語の be についての一考察

Shinichiro Kodani

## THE SIMPLE IMPERATIVE

鈴木 俊司

言語に関する二つの覚え書

石田 久

G. Chapman の悲劇—〈その2〉

高橋 弥生

ハーディとバトラーの比較

森 道子

Milton とギリシア悲劇

山田 勝

オスカー・ワイルド研究：身辺の芸術（1）

山本 哲

現実と理想の間

- 前波清一 ジョン・オズボーン (上)
- No. 9 (1970)
- 小谷晋一郎 Attributive Adjective の一考察
- 西川盛雄 表現論 (Adv-Adj-Nom 構文について)
- 福井三奈子 Middle English *Amis and Amiloun* と Anglo-Norman *Amis e Amilun* についての一考察
- 平井明子 Marlowe の世界
- 森道子 *Paradise Lost* における epic simile に関する覚え書
- 渡辺和子 Jane Austen 研究—Bath 時代の創作姿勢をおって—
- Itsuyo Higashinaka The Role of Food in Byron's *Don Juan*
- 山田勝 オスカー・ワイルドにおける PURPLE の意味
- 伊豆大和 Steinbeck と *East of Eden*
- 前波清一 アーノルド・ウェスカー—ユートピアと現実演劇—
- No. 10 (1971)
- 西川盛雄 Synonymity 考
- 島田守 「不定詞付対格」構文の統語分析
- 加藤主税 反対動作と動詞の否定辞
- 福井三奈子 Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*
- 宮川朝子 Mystery Plays に見られる Herod 像
- Itsuyo Higashinaka Byron's Triangle—Byron's View of Wordsworth and Coleridge—
- 玉井暉 『ドリアン・グレイの肖像』論—ワイルドのゆれ動く自己—

## No. 11 (1972)

- Kunihiro Iwakura A Phonological Analysis of Numeral-Counter Compounds in Japanese within the Framework of Generative Phonology
- 加藤主税 Structural Synonymityと言語理論
- 寺村昇自 Modalityの意味論的考察—序論
- 宮川朝子 Mystery PlaysのMary Magdalene
- 平井明子 “This Unnatural Scene”—*Coriolanus*の一考察  
—
- 坂本武 A Political Romanceの問題—Sterneにおける《書くこと》のはじまり
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性——(1) テーマについて
- 玉井暉 アーサー・シモンズにおける象徴主義——(1) 不安感から象徴主義へ
- 植苗勝弘 *Jude the Obscure*の一考察
- 三浦良邦 ハックスリーの探求(1)——初期小説について
- Kazuhito Hayashi Ezra Pound's *Cathay*

## No. 12 (1973)

- 加藤主税 動詞の aspect feature について
- 長谷川存古 完了形について
- Tsuneo Hase On the ‘Temptation Scene’ of *Othello*
- 仙葉豊 「宗教人」Robinson Crusoe
- 藪村喜次 「深夜の霜」—その形式と想像力
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その1

- Kazuko Watanabe Time in *Mrs. Dalloway*  
 岡村祥子 Eliot の詩劇における二つの道—肯定の道を中心に—  
 三浦良邦 ハックスリーの探求 (II) —『恋愛対位法』について—

## No. 13 (1974)

- 加藤主税 動詞の意味構造について—状態変化と意味—  
 長谷川存古 語用論への一視角  
 後藤秀子 'A Verray, Parfit Gentil Knight'—*The Knight's Tale* における人間の nobility  
 小林恵子 *Jerusalem* —考察  
 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性— (2) 共通の詩行について—その 2  
 Morito Uemura SWINBURNE'S VIEW OF THE WORLD SEEN THROUGH HIS SEA-IMAGERY  
 Katsuhiko Uenae A DEFENCE OF HARDY'S "FELLOW-TOWNSMEN"  
 前波清一 シングと狂気  
 岡村祥子 *Four Quartets* についての一考察—二つの道  
 三浦良邦 『すばらしい新世界』の二つの社会について  
 山田美知子 *The Pearl*—その技法について

## No. 14 (1975)

- 後藤秀子 トロイラスとポエチウス  
 小林恵子 *Vala or the Four Zoas*—Blake における思想的変遷  
 藪村喜次 水夫の〈祈り〉と〈喜び〉



- 木村成子 ジョージ・エリオットのヘロイン達：ロモラ、ド  
ロシア、グエンドレン（I）
- 瀬屋素子 四つの“party”——Virginia Woolf の中期三小説  
における“moment”
- 川口能久 *The Power and the Glory* における手法とその象  
徴性
- 松阪仁伺 ポー短編小説の側面（1）
- 山田美知子 *To a God Unknown* 一考察

## No. 15 (1976)

- 沖田知子 状態変化動詞の意味構造
- 森田繁春 言語学と文学の交わり—構造的文体論—試考—
- Kazuko Watanabe *Time in Oedipus Rex and Macbeth*
- 仙葉豊 *Roxana* の主題と構成
- 小林恵子 *Milton* 一考察
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同  
一性と差異性—（2）共通の詩行について—その3
- 西前孝 ウィンタボーンへの視点—H. ジェイムズ‘Daisy  
Miller’考—
- 瀬尾素子 後期小説への模索—*Orlando* 一考察
- 白川計子 サミュエル・ベケット論—『名づけえぬもの』を  
素材にして—

## No. 16 (1977)

- 加藤主税 2種の「はじめ」について—日英語比較研究—
- 堀田知子 意志と意図

- Shigeharu Morita A Structural Analysis of Dylan Thomas's  
"The force that through the green fuse drives  
the flower"
- 高田 ちさ子 少女エリザベスをめぐって John Donne, *The  
Anniversaries* 研究
- 斎 藤 隆 文 ワーズワスにおける風と想像力
- Yoshihisa Kawaguchi Personal Relationships in *Howards End*
- 松 阪 仁 伺 ポー短編小説の一側面 (2)
- No. 17 (1978)
- 長谷川 存古 「発話関数」試論
- Isao Higashimori ON SYNTACTIC, SEMANTIC AND PRAG-  
MATIC PROPERTIES OF *POSSIBLY* AS A  
SENTENCE ADVERB
- Taisuke Nishigauchi Notes on Logical Form and Types of Corefer-  
ence
- 堀 恵 子 William Blake の統合的芸術作品, *The Marriage  
of Heaven and Hell*
- 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同  
一性と差異性— (2) 共通の詩行について—その4
- 米 本 弘 一 スコットの非合理的世界—『ラママアの花嫁』に  
おける超自然的なるもの—
- 白 川 計 子 Samuel Beckett 論—*Happy Days* 考—
- Shigeo Suzuki THE ORDER OF THE EXTRAORDINARY  
EXPERIENCE IN *BENITO CERENO*

No. 18 (1979)

- Isao Higashimori ADVERBIALS, IMPERATIVES AND PRAGMATIC CONDITIONS
- Yasuhiro Ieki NOTES ON THE PLUPERFECT WITH SPECIAL REFERENCE TO 'PHASE'
- Keiko Kakuta Transitive vs. Intransitive Prepositions
- Yoshiaki Kashimoto On the Semantic Contrast between Epistemic *May* and *Can*
- Taisuke Nishigauchi QUANTIFIERS, INFERENCE, AND VARIABLE BINDING
- Kiyoshi Miyagawa MEMORY IN *THE PRELUDE*
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性— (3) 「ハイピアリアン」独自の詩行について— その1
- 西前孝 自己との対峙—H.ジェイムズ『ある婦人の肖像』第42考
- 森岡裕一 シャーウッド・アンダソンの処女作—『ワインズバーグ・オハイオ』への道—
- Keiko Fujie HEMINGWAY AS A TECHNICIAN IN A *FAREWELL TO ARMS*
- 三浦良邦 『多くの夏を経て』について—神秘主義思想を中心に—
- 田口哲也 或る遁走—T. S.エリオットの詩に現われる—海と鷗に関するノート
- No. 19 (1980)
- 沖田知子 進行形の原理
- 家木康宏 Phase と Aspect
- 竹鼻圭子 動詞小詞結合と有標語順

- 村主 幸一 新しい共同体の出現—*King Lear* のヴィジョン  
—
- Chisako Aramaki The Pilgrimage with Paradox
- Kiyoshi Miyagawa Creative Sensibility in Wordsworth's Poetry
- 米本 弘一 スコットの調和のヴィジョン—Guy Mannering  
論—
- 植苗 勝弘 ハーディの短篇小説にみられるエロチシズム
- Keiko Oshio The Sense of Parody in *Ulysses*
- 田口 哲也 不毛の地の犬—エリオットのニヒリズム—
- Keiko Fujie Hawthorne's Light & Dark in *The Scarlet  
Letter*
- Yuichi Morioka The American Dream & The Grotesque—The  
Novels of Nathanael West—
- No. 20 (1981)
- 藤井 治彦 あの頃の私たちのこと
- 藤田 実 *Prelude* と *Osaka Literary Review*
- 石田 久 *O. L. R.* 発刊20年に寄せて
- 栞田 良一 *Osaka Literary Review* 誕生
- 森 晴秀 創刊当時を思う
- 梅垣 清 創刊号のころ
- 東森 勲 Not+Still について
- 柏本 吉章 述語の断定性と補文の文性
- Mari Sakaguchi A Phrasal Analysis of Passive Constructions
- Keizo Nomura THE THAT-CLAUSE REVISITED
- 田口 まゆみ 『ガウイン卿と緑の騎士』における象徴性と宗教性
- 村主 幸一 溶解する宮廷—*The Tempest* と宮廷神話

- Kazuhiko Murai Strumpet Fortune: A Study of Shakespearean Tragedy
- 鈴木 繁 夫 「強き強者」と「弱き強者」—ミルトンの二つの人間像—
- 安藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性の差異性— (3) 「ハイピアリアン」独自の詩行について—その2
- 小野 慶 子 テニソンと海
- Keiko Harada Dramatic Aspects of Eliot's Poetry
- 藤江 啓 子 *The House of the Seven Gables* における Hawthorne の時間
- 大塩 恵 子 Wallace Stevens の海の寓話
- Katsuaki Watanabe Hemingway and the Ritual
- No. 21 (1982)
- 森田 繁 春 詩的隠喩に関する覚え書
- 川越 いつえ 英語語強勢決定のメカニズム—強勢型と音節の重さの関係—
- 村井 和彦 Shakespeare 悲劇における 'plotter' たち
- Kaori Yamatsu Miranda as a "Maid"
- Takako Haruki Keats through his use of metaphors in *Isabella*, *The Eve of ST. Agnes* and *Lamia*
- 新野 緑 *Bleak House* の空間—Lady Dedlock を中心として—
- 川口 能久 蠅の王と四人の少年たち
- 松阪 仁伺 森とカーニヴァルの世界—ホーソーンの "The May-pole of Merry Mount" 論—
- Keiko Fujie To Regain Paradise by Lifting a Veil

No. 22 (1983)

家木 康宏

*Already, Now* と「局面の変化」

川越 いつえ

文強勢型と韻律理論—非語彙項目の取り扱いをめ  
ぐって—

由本 陽子

使役表現の選択に関わる意味素性

Asako Miyagawa

Dualism in *The Castle of Perseverance*

山津 かおり

*The Winter's Tale* 試論—Perdita 発見

服部 典之

*Roderick Random* における二重逆転構造

春木 孝子

キーツの人格化の比喩—“Ode on Melancholy”と  
“To Autumn”をめぐって—

Keiko Ono

Dreams in *In Memoriam*

Katsuaki Watanabe

*Henderson the Rain King*: Bellow's Festival

No. 23 (1984)

野村 恵造

ヴァイトゲンシュタインとオースティン—語の意味  
論と文の意味論—

堀 環

補文選択の意味的考察

Mari Takahashi

Children's Misinterpretation of OS-relatives

The VP-attachment Analysis

富永 英夫

Before 節の時制構造に関する一考察

山津 かおり

『お気に召すまま』試論—愛の空間と帰還—

針木 蓮一

*The Parish* とクレアの社会批判

新野 緑

二つの円環—*Hard Times* の空間構造—

服部 慶子

おとぎ話の鏡像としての“Balin and Balan”—  
*Idylls of the King* 考察—

Keiko Oshio

The Revisionist Voice of T. S. Eliot in the  
“Notes” Toward *The Waste Land*

Chiyo Yoshii Isabel's Self-education in *The Portrait of a Lady*

No. 24 (1985)

Mari Sakaguchi The Acquisition of Passives

Mari Takahashi More On the VP-attachment Analysis of OS-relatives

刀 衿 雅 彦 時間表現の意味構造とその分析

山 津 か お り プリトマート考察—甲冑と金髪との間で—

佐 野 隆 弥 『終わりよければすべてよし』試論—病いと治療をめぐって—

Keiko Harada Edward Thomas: Time and Modern Sensibility

Masaki Shibata Reading and Misreading *Ulysses*

好 井 千 代 剰余の力学—*What Maisie Knew* 一考—

No. 25 (1986)

由 本 陽 子 *Un-*派生語の逸脱性について

Keiko Harada "At death, you break up"—Philip Larkin's struggle with mortality—

服 部 慶 子 Arthur 王の死——*Idylls of the King* 考

渡 部 充 線的世界からモザイク的世界へ—『四つのゾア』とブレイクの時間

好 井 千 代 *The Princess Casamassima* における曖昧性の意味

No. 26 (1987)

東 條 良 次 情報価付与と修正関係

梅 原 大 輔 Small Clause と補部選択

- Masumi Matsumoto A Study on the Prepositional Passive  
 柴田正樹 「さまようこと」の意味—『間違いの喜劇』試論—  
 冨田成子 *Romola* とルネサンス絵画  
 植苗勝弘 'Old Mrs Chundle' 私論  
 Keiko Harada History in Layers The Sense of the Past in  
 Thomas Hardy's Poetry  
 Yoshio Ise The Discrepancy of Marlow's Narration:  
 Romanticism and Utilitarianism in *Lord Jim*
- No. 27 (1988)
- 梅原大輔 英語における時制の不一致—Anchoring の視点  
 から—  
 田岡育恵 副詞類の出現位置について  
 溝手真理 愛のヒエラルキー—『妖精の女王』第三巻・四巻  
 一考—  
 Sayuri Yamatsu Respect and Concord: A Study of *A Midsum-  
 mer Night's Dream*  
 小島裕子 *Richard II* における「王」という名前についての  
 一考察  
 渡部 充 無化する詩人 —『ミルトン』におけるブレイクの  
 自己回復—  
 Reiko Uno The Leaf-encumbered Forest: Mrs Dalloway's  
 Ego  
 伊勢芳夫 *Nineteen Eighty-Four* における Orwell 的 反動  
 Keiko Oshio Benjy Compson and the Crisis of Articulation:  
 Two Post-Modern Readings of *The Sound and  
 the Fury*



## No. 28 (1989)

濱本 秀樹

感情形容詞のファジィ理論による分析

吉村 あき子

yet についての一考察—yet, already, still, any more,と「まだ」と「もう」—

白谷 敦彦

IT-cleft 対 WH-cleft—語用論的研究—

Umehara Daisuke

On the Licensing of Perception Verb Complements

大森 文子

提喩に関する一考察

田岡 育恵

「譲歩」の *When* と「時」の *When*

東條 良次

文法関係と語順—視点理論との関連で—

溝手 真理

崩れ落ちる要塞—『羊飼の暦』試論—

Yoshiko Imagawa

Degeneration and Irony in Doctor Faustus

山津 さゆり

修辞と行為—『マクベス』試論—

Keiko Oshio

“The Magi” and Modernist Imagery

伊勢 芳夫

Jim と Kurts—Marlow 船長の語りに隠されたこと

宇野 玲子

創作への意思—*Jacob's Room* 試論

## No. 29 (1990)

早瀬 尚子

「鬼」はどこから来たか

Hiroyuki Ura

A NOTE ON INFINITIVAL COMPLEMENTATION IN ENGLISH

濱本 秀樹

形容詞の比較級について

吉村 あき子

ever についての基礎的考察

岡田 禎之

結果の二次的述語の拡張行為について

Atsuhiko Shiratani

RESTRICTED USE OF CLEFTS IN DISCOURSE

- 光原百合 修辞学的逆説の一分析——アイロニーとの関連から
- 山崎英一 関連性理論における疑似条件文
- Mari Takahashi The Acquisition of Echo Questions
- 山津さゆり 『オセロー』試論—知性と情動—
- Miyoko Murai The Metamorphosis of La Belle Dame sans Merci
- Yuriko Nishimura A Story in Search of its Meaning: Conrad's *Heart of Darkness*
- 伊勢芳夫 価値と視点——*The Good Soldier* のレトリック
- HARUKI Takako ABSENCE AND PRESENCE IN THE POEMS OF PHILIP LARKIN
- Mizuho Ota Completing a Circle: Alice Walker's *Meridian*